

子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 高知 報告書



2016年10月15日（土）、子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン in 高知（以下、全国キャラバン in 高知）が高知県との共催で高知城ホールと高知共済会館にて開催されました。会場には、第一部に約90人、第二部に約50人が集まりました。

午前中の第一部では、村尾政樹・事務局長からの挨拶・趣旨説明に続いて、山本倫嗣・高知県地域福祉部児童家庭課課長、谷本恭子・高知聖園天使園施設長、青木美紀・高知あいあいネット・フードバンク高知代表の3人からそれぞれの取り組みと子どもの貧困に関してご報告をいただきました。



その後、小学生に教育支援を行う『からふるカンパニー』の高知大学の学生メンバー、子ども食堂開設の準備を進める『高知県立大学☆こどもみらい塾☆』の学生メンバー、中島由美・高知市社会福祉協議会共に生きる課課長、中島香織・こども支援ネットみんなのひろっぱ代表によるディスカッションが行われました。それぞれ出会ってきた子どもの様子について共有され、様々な子どもの困りごとがある中で、何かを基準に線引きせず、個々の困りごとに向き合い寄り添う支援の必要性を訴えました。ディスカッションのコーディネータは、工藤鞠子・あすのば学生理事が担当しました。



午後の第二部では、はじめに直島克樹・あすのばアドバイザー、川崎医療福祉大学講師より『岡山子どもの貧困対策ネットワーク会議』についてお話をいただき、直島氏は「何より大人同士の意見や考え方の対立で対策を止めることがあってはいけない。子どもの利益を最優先にした大人の姿勢が問われている」と強調しました。

その後、「高知県の子ども支援マップづくり」と称したグループワークを行い、子どもと関わりのある人や子どもを取り巻く環境がどれくらい県内にあるのか整理をしました。参加者からは「想像以上に資源があるのにも関わらず、皆で支えようとする横のつながりや子どもとのつながりが希薄になっていることが視覚化された」と感想をいただきました。

意見交換タイムの冒頭には尾崎正直・高知県知事も会場に駆けつけていただき、「高知県として更に取り組みを皆様と一緒に前へ進めていければ」と子どもの貧困対策に込める想いを共有していただきました。



意見交換の後、参加団体の子ども食堂こうち実行委員会、一般財団法人砂原児童基金、ごめんこどもクッキング、NPO法人GIFT（こうち居場所づくり実行委員会）からもリレートークが行

われ、学生主体に企画・運営した今回の機会を通して高知で子どもを支えるためのネットワーク化につながる可能性を感じながら全国キャラバン in 高知は閉会となりました。

参加者からは「支援者の方々の取り組みを聞くことが出来て有意義でしたし、とても参考になりました。（40代・女性）」、「何かしたいという気持ちを、また突き動かされました。自分の夢を必ず叶えます。（30代・女性）」、「地域の取り組みの中から課題を浮き彫りにして考える姿勢が素晴らしいと感じました。（50代・男性）」、「学生皆さんが貧困問題に関心を持ち、その課題に向き合っている意識に感心し有り難く思いました。支援をする側が気付かない、でも大事な視点をたくさん聞かせていただいたと思います。（40代・男性）」、「学生中心の取り組みと知り大変頼もしく素晴らしいと感じました。大人だけではできないこと、分からないこと、力不足なところが多くあると思います。地方の小さな声をまとめて政策提言をしていただきたいと思います。（50代・女性）」、「子どもの貧困は子どもだけのことでなく、社会全体の問題として考え、対応していく必要があると改めて感じました。（30代・女性）」、「いろんなつながりやネットワークを生かして新しい仕組みをつくっていきましょう（40代・男性）」などの感想をいただきました。

【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 高知】

日 時：2016年10月15日（土）第一部10時～12時 第二部13時～16時

場 所：高知城ホール、高知共済会館／主 催：公益財団法人あすのば／共 催：高知県

後 援：内閣府、高知市、高知新聞社、RKC高知放送

参加者：第一部 約90人 第二部 約50人 合計 延べ約140人が参加